

2 0 2 5 年 度

入 学 試 験 問 題

国 語

注 意

- ・問題は①から④までで、14ページにわたって印刷してあります。
- ・試験時間は50分です。
- ・声を出して読んではいけません。
- ・解答用紙はA4判のオモテとウラに分かれてあります。
- ・答えは、問題の指示に従って、解答欄の決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
- ・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- ・字数指定のある問いはすべて、句読点・記号も一字と数えるものとします。
- ・答えはすべて別紙解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- ・解答用紙には受験番号、氏名を記入しなさい。

(正しい例)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

(誤った例)

		3		5
1	2			

- ・マスの中に正しく数字を書き、空欄や文字のはみ出しがないこと。

学校 東洋大学
法人

東洋大学京北高等学校

1 次の問いに答えなさい。

問一 傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。解答欄は解答用紙のウラ面です。

- (1) 彼はスジガネ入りの冒険家だ。
- (2) 人生のキロに立つ。
- (3) ヒカエの選手が活躍する。
- (4) ふすまをヘダてて話す。
- (5) 星が天をオオう。

問二 傍線部③④の品詞として最も適切なものをア～コからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

十年をひと昔というならば、この物語の発端は今からふた昔半もまえの③ことになる。世の中のできごとといえば、選挙の規則があらたまつて、普通選挙法というのが生まれ、二月にその第一回の選挙がおこなわれた、二か月後のことになる。昭和三年四月四日、農山漁村の名が全部④てはまるような、瀬戸内海べりの一寒村へ、若い女の先生が赴任してきた。

『二十四の瞳』 壺井栄

ア	動詞	イ	形容詞	ウ	形容動詞	エ	名詞
オ	副詞	カ	連体詞	キ	接続詞	ク	感動詞
ケ	助動詞	コ	助詞				

問三 次の問いに答えなさい。

(1) 次の（ ）にあてはまる言葉として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

（ ）と考える若者が多くて、大企業に人気が集中している。

ア	寄らば大樹の陰	イ	濡れ手で粟
ウ	釈迦に説法	エ	船頭多くして船山に登る
オ	紺屋の白袴		

(2) 次の（ ）にあてはまる言葉として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

オリンピックで金メダルを取るといふ、（ ）たる活躍をした。

ア	明鏡止水	イ	無我夢中	ウ	我田引水
エ	面目躍如	オ	異口同音		

(3) 次の四字熟語の（ ）に入る数字を全て足した数として適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア	8	イ	10	ウ	14	エ	18	オ	20
④	岡目	③	寒四温	②	里霧中	①	朝		
	目						夕		

問四 (1) (2)の傍線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書きなさい。解答欄は解答用紙のウラ面です。

- (1) くもゐにまがふ沖つ白波
(2) けふこのへに匂ひぬるかな

問五 次の書き下し文を参考にして返り点をつけたとき、最も適切な漢文をア～オから選び、記号で答えなさい。

【書き下し文】 鮑叔以て怯と為さず。

ア 鮑叔不以_レ為怯。

イ 鮑叔不以_二為怯_一。

ウ 鮑叔不以_レ為怯_二。

エ 鮑叔不以_二為怯_レ。

オ 鮑叔不以_レ為怯。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題に際して表記を改めたところがあります。

果^{＊1}遠ちゃん^{かのん}の強さを思い知るほどに、自分の情けなさを痛感させられる。でも、どうやったら変われるのかわからなかった。だから、門のところではなかなか立ち去ろうとしない藤野^{＊2}さんを、きょうも持て余している。話が弾まないのは知っているけどもうちょっと一緒にいたい、そんな空気を女の子が出していたら特に困らない。私から何か話題を探るか、気づかないふりでさっと離れる。女子集団での処世術はある程度身についていた。でも、それを男の人に応用していいのかは、どの教科書にも載っていない。

「この前教えてくれた『さようならの季節に』、聴いてみたんだ」

「はい」

会話をつなぐ気のない返事をして、藤野さんは頑張る。でも「別れの歌だね」なんて、絶望的につまらないコメント。タイトルに「さようなら」って入ってますから、と言いたいのをこらえて「そうですね」と消極的な相槌^{あいづち}を打った。藤野さんは A 目を泳がせてから、わざとらしく咳払い^{せき}をした。こんなことする人、ドラマの中だけかと思っていた。現実にいるんだ。

「えっと……結珠^{ゆず}さん」

「はい」

「結珠さんは、どうして医者になりたいの。具体的に何科に進みたいとか、あるのかな」

思いもよらない質問に、答えが出てこなかった。模範解答ならちゃんとある。祖父や父も医師だったのでその背中に憧れて、とこれまで

何度も使ってきた口実をリピートすればいいだけなのに、 B し

ているくせに遠慮のない藤野さんの視線が私の言葉を封じる。

①「いや、いきなり不躰^{ふしつけ}なことを訊^きいてすみません」

謝りつつも、藤野さんは質問を撤回しない。

「家とか親がとか、そういう理由ならちよつと立ち止まって考えてみてもいいんじゃないかなって思っ……どうだろう」

「藤野さんは違うんですか」

仕返しのつもりで訊き返したのに「違わないよ」とあつさり肯定されてしまう。

「周りが敷いたレールに乗っかるのはすごく楽だから。でも、一度レール上で思考停止^{＊3}してしまうと、途中で進行方向を切り替えるのはすごく難しい。小瀧^{こたき}先輩は要領がいいし、いろいろと割り切ってるからきつと大丈夫だけど、結珠さんは真面目すぎてちよつと心配で」

「別に真面目じゃないですけど？」

ママが聞いていたら、「何なのその言い方は」とすぐに教育的指導が入っただろう。私の、あからさまに小馬鹿にした口調にも藤野さんは怒らない。

「仕事は一生の問題だし、高校一年なんだからまだまだ時間はあるよ。誰かの望みじゃなくて、結珠さん自身が好きなこと、本当にやりたいことについて一度じっくり考えてみてほしい」

やりたいこと。「将来の夢」というアンケートや進路調査票に何度「医師」と書いただろう。勉強は苦じゃなかったし、難関をくぐり抜けて医師になった後も仕事を苦にはしないだろうと思っていた。逆に言えば、敷かれたレールを曲げるほどの情熱を何かに抱いたこともなかった。

でも今、「本当にやりたいこと」という言葉を聞いた時、私の頭に浮かんだのは七歳の果遠ちゃんだった。時計の読み方を教えたら飛び跳ねて喜んでいたあの子。公園の時計の針を見上げる瞳に、日が昇るようにぐんぐん光が満ちていった。

——やった！ やった！

ささやかな知識や知恵が、誰かを輝かせることがある。ちいさな達成感が誰かを支えることがある。私はそれを、果遠ちゃんから教わっていたんだった。何もない、空っぽの私にも、できることがある。

「……小学校、の、先生」

自分でも聞き取れないくらいあきの小声で、でも確かに私はそう言った。思いつきでしょ、と呆れる自分と、そうだと肯定する自分の両方が血の中で争っているように頭がかーとなり、呼吸が乱れた。

「うん」

藤野さんは私の混乱を理解しているかのように頷いた。うなず

「小学校の先生、いいと思うよ」

「何ですか」

両手をぎゅつと握りしめる。一瞬ほつとしてしまったのが悔しい。

ママが絶対言ってくれない言葉を、この人がかけてくれたからって何なの。

「そんな、適当に言わないでください」

「適当じゃないよ。結珠さんだって、適当に言ったんじゃないでしょう」

「わかりません」

「じゃあ、何で『先生』って言ったの、しかも『小学校』って具体的に

に」

「知りません」

「結珠さん、落ち着いて。すぐにじゃなくていいから、もっと深く考えてみよう」

「何でそんなこと言われなきゃいけないの？」

私はものすごい目つきをしていたと思う。藤野さんは一歩後ずさり、それでも私から目を逸そらさなかった。

「藤野さんは私に勉強を教えるために来てくれてるんですね？ 受験の後のこととか関係なくないですか？」

「そうかもしれない」

と言ったくせに、踏み込んできた。後退した一歩より広い歩幅で、さつきよりも私に近づく。私は怖かった。痴漢や変質者に対する恐怖とは違う、でもどういう怖さなのかうまく説明できない。この人が私に危害を加えないことは知っているのに、何だろう、薄皮一枚のすぐ下で心臓が鳴っているような鼓動の騒がしさは、心許こころもとなさだ。

「だけど、僕には結珠さんの苦しさは何となくわかる。だから結珠さんの力になりたい」

藤野さんが両手を伸ばし、私の握り拳をそれぞれ包んだ。私は生まれて初めて、男の人から手を握られた。パパやお兄ちゃんとさえ、身近に触れ合った記憶はない。ひよろひよろのキリンのくせに指がごつごつたくましく、身体の造りがまるで違う生き物なんだとその感触でわかってしまう。私の腕に触れた果遠ちゃんの指は、なんてか細くやわからなかったことか。私は瞬時に手を振り払い、そのまま藤野さんの顔を見ず家に駆け戻った。

扉を開けると玄関先にママが待ち構えていて、いつものことなのに

ぎゅつと胃が締め上げられるのを感じる。

「どうしたの」

穏やかにママが言う。

「きょうはすこし長かったのね」

「……大学の話とか、いろいろ聞いてて」

「先生のご迷惑にならないようにね」

「はい」

さつと背中を向けたママを引き止めたらどうなるだろう。いつもならそんな勇氣は出ないのに、私は興奮状態だったのかもしれない。藤野さんの言葉や果遠ちゃんの記憶が、^③レールの外に向かつて私の背中をぐいっと押した。

「ママ」

ママは立ち止まっただけで、振り返らない。私は自分の右手で左手を、左手で右手を交互に忙^{せわ}しく握りながら話した。

「ママ、あのね……私、学校の先生にも興味があるの。お医者さんになりたくないってわけじゃないんだけど、^④小学校の……子どもに、いろんなことを教えてあげたいなって……藤野さんも、いいと思うって言うってくれて」

「そう」

とママが応える。その肩幅も背中 of 広さも、男の人に比べれば大したことないのに、私には鉄の壁に見えた。

「もう遅いわね。結珠、お風呂に入りなさい」

「ママ、私、」

「結珠」

ぞくつとした。それは声というより「音声」に聞こえた。自販機や

ATMから流れるアナウンスと同じで、感情を殺しているんじゃない、端^{はな}から存在していない声。

ママは振り返り、言った。

「それがどうかしたの？」

小首を傾^かげるママは普段より幼く、愛らしくさえ見えた。伝わらないんだ、とたつたのひと言で思い知らされる。きつと、意地悪をしているとも思っていないだろう。私の意見や希望を、耳を傾けるべきものだと認識していない。不要なものは捨てさせるだけ。あの日の小鳥の羽みたいに。

(一穂ミチ『光のどこにいてね』文藝春秋)

*1 果遠ちゃん……結珠が七歳の時に知り合った少女。高校で再会することとなった。

*2 藤野さん……結珠の兄が通う大学の後輩。結珠の家庭教師をしている。

*3 小瀧先輩……結珠の兄。

問一

A、B にあてはまる言葉として最も適切なものをア～ク

からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号を二度使ってはならないものとします。)

ア	のろのろ	イ	じろじろ	ウ	おどおど
エ	ふらふら	オ	そわそわ	カ	くるくる
キ	きよろきよろ	ク	もたもた		

問二 傍線部①「謝りつつも、藤野さんは質問を撤回しない」とありますが、その理由として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 結珠が本当に医者になりたいのか疑問に感じているため、ここで結珠の意思をしつかりと確認できなければ、このまま家庭教師として勉強を教えるのは難しいと考えているから。

イ 自分の発言に対していつもそっけない言葉しか返さない結珠に不満を感じており、医者になりたい理由という結珠が答えにくい質問をぶつけることで、日頃の仕返しをしようと思っているから。

ウ 勉強に身が入らない結珠の様子から、本当にやりたいことが他にあるのではないかと思っていたため、家庭教師としてこの機会に結珠の思いを聞いておこうと考えているから。

エ 結珠のことを少しでも理解しようと様々な質問をぶつけても、なかなか心の内を見せてくれなかったが、自分の将来のことに関してなら結珠も答えてくれるのではと期待しているから。

オ 結珠が医者を目指しているのは本心からではないのではないかと感じており、周りが決めた道を進むのではなく、自分が本当にやりたいことをじっくり考えてほしいと思っているから。

問三 傍線部②「私の混乱」の説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 思わず口に出した小学校の先生という新たな将来の夢が、その場しのぎの思いなのか、それとも本心なのか、自分でもわからなくなっている。

イ 藤野さんの勢いに押され、つい小学校の先生になりたいと言ってしまったが、医者になる夢を捨てられるわけでもなく、どうしたらいいか迷っている。

ウ 「本当にやりたいこと」として小学校の先生とは言ったものの、家族は絶対にそれを許してくれないだろうと考え、諦めるべきか悩んでいる。

エ 藤野さんに突然「本当にやりたいこと」を聞かれたために、今まで誰にも言えないでいた小学校の先生という夢を、口に出してしまった自分に困惑している。

オ 果遠ちゃんとの思い出がきっかけで、安易に小学校の先生になりたいと思ったが、そんな甘い気持ちで夢と言っているものかどうか、戸惑っている。

問四 傍線部③「レールの外」が指しているものとして最も適切なものを

ア く才から選び、記号で答えなさい。

ア 誰か他の人の望みではない、自分で選んだ将来の夢

イ これまで恐怖心から避けてきた、ママとの対話

ウ 自分でも認められずにいた、藤野さんへの恋心

エ 七歳の時の、果遠ちゃんと過ごした楽しい時間

オ 医者になることを、完全に諦めるという決意

問五 傍線部④「小学校の……子どもに、いろんなことを教えてあげたい

な」とありますが、結珠がそう思ったのはなぜですか。次の文がその

答えになるように、 にあてはまる言葉を、四十字以内で答え

なさい。解答欄は解答用紙のウラ面です。

果遠ちゃんに時計の読み方を教えたことで、 に気づき、自分にもできることがあると思ったから。

問六 次の文章は果遠の視点で描かれた本文の直後の場面です。この文章

を読んだ三人の生徒が結珠とその母親について話し合いをしました。

生徒たちの発言のうち、適切でないものをア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

文章

「小瀧さん」

ちよっと立ち止まって通り過ぎるだけのつもりだったのに、結珠ちゃんの姿が見えて素通りできなくなった。ドアを開けると同時に呼びかけると、結珠ちゃんは驚いて手を止めた。

「あ、ごめん、邪魔しちゃった」

「うん……図書室行つたの？ ごめんね、うるさかったでしょ」

図書室と音楽室が同じ階にあるなんて間違ってるよね、と笑う結珠ちゃんは、何だか疲れて見えた。

「うるさくないよ、小瀧さんうまいし」

「全然。長いこと弾いてなかったからリハビリしなきゃって焦って」

すらららら、と淀みない手つきで鍵盤を辿ると指先が歌っているように美しい音がこぼれ、小鳥になって結珠ちゃんの肩に止まりたいと思った。

「家では練習できないの？」

「ピアノ、捨てちゃったの」

楽譜から目を離さずに結珠ちゃんと言った。

「レッスンやめて何年も経ってたし、使ってなかったから」

合唱祭が終わるまでは置いといたってよかったんじゃないの、と言おうとして、結珠ちゃんの硬い横顔に口をつぐむ。ピアノを捨てるか

どうか、結珠ちゃんに決められるはずがない。その程度の事情は察して黙っていられるようになった。でも、考えなしに「もったいないよ」とか言えるわたしのほうが結珠ちゃんは気楽かもしれない。

ア 生徒A ピアノを捨てたのは絶対結珠の母親だよ。本文にも

「不要なものは捨てさせるだけ」とあるし。結珠の気持ちをまったく尊重しようとしていないよね。

イ 生徒B 私もそうだと思う。でも、本文に「小首を傾げるマ

マは、普段より幼く、愛らしくさえ見えた」とあるように、結珠自身は母親からの愛情を感じてるのかもしれないね。

ウ 生徒C どうなんだろう。ただ文章には、「結珠ちゃんは、

何だか疲れて見えた」とあるから、果遠が見ても明らかほど、母親のことで心を悩ませているんだろ
うね。しかも本文には、母親を前にして「ぎゅっと胃が締め上げられるのを感じる」とある。母親に対して相当な恐怖心を感じているよね。

エ 生徒A それは間違いないよ。母親への恐怖心や、それを知

られたくないという思いから、母親にピアノを捨てられたことを言えなかったとも考えられるよね。

オ 生徒B たしかに。結珠はいつも自分の感情を表に出すこと

を我慢しているよね。藤野さんのつまらない話にも結局付き合っ
てあげてるし。

カ 生徒C あんまり私はこういう子は好きじゃないかな。でも

小学校の先生になりたいという夢は、藤野さんにも

母親にも伝えているわけだから、結珠もただの気まぐれで言ったわけじゃないんだろうね。

3

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題に際して表記を改めたところや、一部省略したところがあります。

農業や食品の業界を取材していると、「胃袋が縮む」という言葉をよく耳にする。農産物や食品の国内市場は、全体としてはしぼんでいくと予想される。

しかし、そんな時代であっても需要が拡大している分野はある。^①加工・業務用だ。

総務省の「家計調査」によると、弁当やおにぎり、そうざい、冷凍食品などを含む「調理食品」の一世帯（二人以上の世帯）当たりの年間支出金額は、増加傾向にある。とくに五〇歳代以上の、年齢が高い世代で支出金額は大きく増えている。

単身世帯は、二人以上の世帯に比べて調理食品への支出割合が高い。単身世帯は今後増え続けるので、調理食品、つまり中食の需要はますます大きくなる。

農林水産省によると、消費者が食品に支出する金額のうち、加工・業務用の割合は、すでに七割を占めており、二〇四〇年には八割に達する。単身世帯や共働き世帯の増加で、「食の外部化」が一層進むと見込むからだ。「^②」（農林水産省）と予想している。

つまり、消費者が便利さを追求する時代の変化に生産現場が追いつき、加工・業務用の需要を取り込めるならば、国内農業にはまだまだ成長の余地がある。

加工・業務用の需要に食い込むことで農業が成長しうることを裏付けるデータを見ていこう。

まず、野菜を例にとると、加工・業務用の割合が伸びていて、二〇

二〇年時点で五六％に達している。ところが、この加工・業務用に占める国産の割合は、

A％に過ぎない。家計消費用の実に **B**％が国産なのと対照をなしている（図1）

農林水産省がとりまとめた

実需者への意識調査「加工・業務用野菜の実需者ニーズに関する意識・意向調査結果」によると、

国産食品・原材料を「増やしていきたい」との回答は、食品の製造業と卸売業において五割近くに達する。

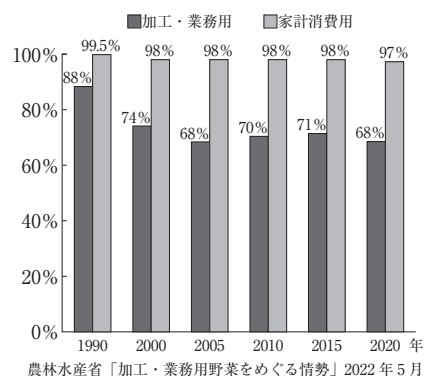
にもかかわらず、現実には輸入品がよく使われる。

理由は、定時に定量を安定した価格で調達できるという加工・業務用の要求を国産よりも満たしやすいからだ。輸入品にも相場の変動はあるけれども、総じて安く、食品メーカーの要求に適いやすい。そのため、原料として重宝されてきた。

なかでも、外国産が圧倒的に多いのが、冷凍野菜。冷凍野菜の流通量は増加傾向にあり、二〇一二年以降は一〇〇万トンを上回っている。うち九〇万トン以上、近年では一〇〇万トン以上を輸入が占める。**C**の量は減っているの、**D**を増やして流通量の伸びを賄っている状態だ（図2）

一般論として、加工食品の原料には、歩留まりを気にしなくていい冷凍が好まれる。生鮮に比べて、劣化の心配が少なく、年間を通じて安定的に供給できるからだ。

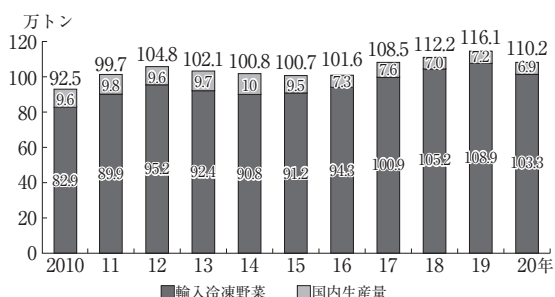
図1 加工・業務用野菜の国産割合（主要品目）



それだけに、冷凍野菜の流通量は今後も伸び続けるはずである。

このうち、国産の割合はどの程度なのかといえば、二〇二〇年時点でわずか六%にとどまる。このままでは、輸入量が一層増え、国内の産地はみすみす需要を逃すことになりかねない。せっかくの販売機会を失うというもったいない現状を見直すきっかけとなったのが、コロナ禍に伴う輸入の停滞だった。

図2 冷凍野菜の国内流通量



農林水産省「加工・業務用野菜をめぐる情勢」令和4（2022）年5月
一般社団法人日本冷凍食品協会「冷凍食品の生産・消費について」をもとに農林水産省作成
冷凍野菜の国内流通量は輸入冷凍野菜と国内生産量を合計した数値

コロナ禍によるコンテナ船の滞留といった輸送の混乱、ロックダウンや感染拡大による食品工場や屠畜場の一時閉鎖、円安……。二〇二〇年以降、食料の輸入に影を落とす事態が相次いで起こった。

③「加工・業務用の原料を国産野菜にしていこうという流れを作ったのが、中国です」

こう解説するのは、青果卸・株式会社彩喜（埼玉県川口市）の代表取締役社長（現会長）である木村幸雄さんだ。木村さんは、野菜流通カット協議会という業界団体の会長でもあり、加工・業務用野菜の生産振興や流通の効率化、安全性と品質の確保・向上、消費の拡大などを目指して活動している。

中国が原料を国産にする流れを作ったとは、いったいどういうことか。異変が起きたのは、二〇二二年四月だった。

「むきタマネギ」の製造工場が集中する中国・山東省の街が、新型コロナウイルスの感染拡大でロックダウンしたんです。国内で流通するむきタマネギの九〇～九五%くらいが中国産という状況なのに、三週間ほど、ごく少量しか輸入できなくなった。それで、価格が倍くらいまで高騰しました」

中国からの輸入が止まったうえ、国内最大の産地・北海道が天候不順で不作になり、タマネギの国内流通量は急減した。北海道産の価格は、東京都中央卸売市場の卸売価格で平年はキロ一〇〇円前後だったが、四月末に四〇〇円近くまで値上がりした。青果流通に四〇年以上携わる木村さんは、「北海道産があとそこまで高くなったのは初めて」と振り返る。

「輸入に伴うリスクは、これから下がることはなく、背負っていかなければならないのだと痛感したんです」

中国は今後も経済成長を続けるはずで、同国における人件費が下がるとは考えにくい。しかも、ロックダウンによる感染拡大の封じ込めを図った「ゼロコロナ」政策や、その急な緩和が混乱を招くなど、安定供給に疑問符がつく。それだけに実需者は、中国から輸入を続けるリスクを考え直すようになっていく。

ところが、こうした実需側の変化が「国内の生産現場に伝わっていない」と木村さんは不満顔だ。

実需側から国産化を望む声が出てきたことは、日本の農業にとって喜ばしいことだ。

木村さんは、現状について次のようにみている。

「コロナ、ウクライナ危機、円安の三つが重なった今の社会環境は、

逆にいいチャンス。なかでも消費の伸びる冷凍野菜は、原料の国産化に冷凍食品会社も含めて本気で向き合うまたとない機会を迎えている」

X、残念ながら国内では、量と質、価格ともに中国産のように安定して冷凍野菜を調達することが難しい。というのも、冷凍野菜の製造工場は、「一五年ほど前まで国内にそこそこあった」（木村さん）。ところが、食品会社が円高や人件費の高さを理由に海外から調達するようになったことで、数を減らしてしまった。冷凍野菜の供給拡大については、国内最大の農業組織であるJAグループも検討してきたが、順調には進んでいないという。

木村さんは、生産者側が実需者との接点を十分に持てなかったために、供給体制を築けなかったと指摘する。

Y、協議会の会員である生産者や産地、加工業者や流通業者と、冷凍食品会社を結びつける活動をしている。

「いずれ、どんな仕様の製品を、どのくらいの量を使うかという話を冷凍食品会社と詰めていかないといけない。その需要に対して、現状の生産体制では供給が無理となると思います。しかし、^④今までにない発想で向き合えば、供給が可能になるんじゃないか」

その一例として挙げるのが、作付面積も輸入量も右肩上がり続けているブロッコリーだ。栄養価が高く、緑色が鮮やかで見栄えがする「緑黄色野菜の優等生」で、人気の高さから全国的に生産されるようになってきた。

だが、このままいくと、過剰生産で、価格が下落する可能性もあると木村さんはみている。

そうならないように、可食部の大部分を占める花蕾からいをそのまま小売

店で売るという国産ブロッコリーの既存の売り方に加え、花蕾をカット、洗浄して袋詰めしたものや冷凍したものを増やそうとしている。

通常、花蕾は直径一二センチと相場が決まっているが、カットして売らるなら、より大型の品種も使える。直径二〇センチになる品種もあり、従来の一二センチのものに比べて収量が格段に上がる。

「直径一二センチのブロッコリーをとるのに、一〇アールに四〇〇〇〜四五〇〇株ほど定植し、通常一トンを収穫します。それが、二〇センチの大型サイズだと、三〇〇〇株くらい定植し、三トンとれます。大きな変化が起きるんです」

^{*2} 反収が従来の実に三倍になるわけで、そうなれば、新たな消費拡大と、輸入していた部分の国産化が可能だと、木村さんは見込む。

収穫の仕方も、農家が包丁を持ち腰をかめて一つずつ切り取っていくのを、収穫機に置き換えることで、大規模かつ効率的な栽培を可能にしたいという。

Z、収穫機を使うには生育をそろえる必要があり、現実には手収穫も残りそうだが、同じ手収穫をするにしても、大型品種にすれば収穫回数がおよそ三分の一になるうえ、葉を切り落とす手間も省けると木村さんは話す。

直径一二センチ前後で出荷するには、農家は収穫適期を逃さないために圃場*3はじょうに八〜一〇回も収穫に入ることになる。その点、大型の品種は直径を神経質になってそろえる必要がないぶん、圃場に入るのが三回で済む。

「品種も、作り方も、販売の仕方も、すべて大きく変化させていく」すでにある生鮮流通の必要量は確保しつつ、大規模化と機械化で増産できる分を冷凍の需要に振り向けていく。そんな未来図を思い描

く。

「少子化と人口減少が進んでも、皆さんの食生活に必要な野菜は、輸入に頼らずに国産で賄えるんですよ。毎日食べる生鮮野菜に加えて、冷凍野菜や冷凍食品の原料も国産を選ぶというふうには消費者が意識して購買行動を変えてもらえれば、十分いけるはずですよ」

（窪田新之助・山口亮子『人口減少時代の農業と食』筑摩書房）

*1 実需者……商品などを自分で利用する目的で求める人や、商品を購入して実際に消費したり加工したりする人。

*2 反収……田畑一反（約一〇アール）当たりの作物の収穫高。

*3 圃場……畑。

問一 傍線部①「加工・業務用」の需要が今後も拡大していくと考えられる理由の一つとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 調理食品に含まれる弁当やそうざいの味付けを、年齢の高い世代が好むから。

イ 調理食品への支出割合の高い単身世帯は、今後増え続ける見通しがあるから。

ウ 調理食品が、消費者が食品に支出する金額のうち、七割を占めているから。

エ 調理食品の便利さを追求する時代の変化に生産現場が既に追いついているから。

オ 調理食品は世界中の様々な世代で必要とされており、日本もそれに該当するから。

問二

② に入るものとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 食料自給率の低さは国の課題であるものの、徐々に解決に向けての組織的な体制が整っていくと見通される

イ 食料需要は生鮮食品から付加価値の高い加工食品にシフトし、一人当たりの食料支出は増加していくと見通される

ウ 食料品の購買意欲が、新型コロナウイルスの感染が収束することを受けて再び向上していくと見通される

エ 食料問題の一つである食品ロスを解決する方策を、国と企業とが連携して解決していくと見通される

オ 食料供給が減少し経済に影響が生じる事態を防止するため、国が早期から措置を行うと見通される

問三

図1、図2を見て、以下の問いに答えなさい。

(1) A・B に入る数字を読みとり、漢数字で答えなさい。

(2) C・D に入る語句を本文中から漢字二字で抜き出し

なさい。

問四

傍線部③「加工・業務用の原料を国産野菜にしていこうという流れを作ったのが、中国です」とありますが、中国が流れを作ったと言える理由を説明した次の文のⅠ、Ⅱに入る言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。なお、Ⅰには五字、Ⅱには十三字の言葉が入るものとします。

供給を中国に依存していたむきタマネギの輸入が、新型コロナの感染拡大で止まったためにⅠが急減し、Ⅱを考え直し、供給体制を変えようとしたから。

問五

Ⅰ Ⅱ にあてはまる接続詞の組み合わせとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-------|--------|--------|
| ア | X…そして | Y…そこで | Z…あるいは |
| イ | X…そして | Y…なぜなら | Z…もちろん |
| ウ | X…しかし | Y…そこで | Z…すなわち |
| エ | X…しかし | Y…なぜなら | Z…だから |
| オ | X…しかし | Y…そこで | Z…ただし |

問六

傍線部④「今までにない発想」についての説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 栄養価や生産量や販売の仕方などを変化させていくという発想
- イ 顧客層や作り方や生鮮流通量などを変化させていくという発想
- ウ 経営資源元や作り方や価格設定などを変化させていくという発想
- エ 品種や作り方や販売の仕方などを変化させていくという発想
- オ 生産国や販売先や生鮮流通量などを変化させていくという発想

4

4

4

4

- 4

4

4

1 問一 解答欄はウラ面です。

問二	①	カ	⑥	工	⑦	ケ	⑧	ア
問三	(1)	ア	(2)	工	(3)	工		

問四 解答欄はウラ面です。

問五 工

1

2 問一 A キ B ウ 各3

問二	オ	4
問三	ア	4
問四	ア	4

問五 解答欄はウラ面です。

問六 イ オ (順不同) 各3

2

各3

問六	3	工																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											</
----	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

3

4 解答欄はウラ面です。

合計

模範解答

氏名

受験番号

問四

圖 1

自	分	の	さ	さ	や	か	な	知	識	や	知	恵	が	誰
か	を	輝	か	せ	ゝ	ち	い	さ	な	達	成	感	が	誰
か	を	支	え	る	こ	と								

2

問四

問 1

(1)	$\forall \# \supset \neg \# \neg, (\neg \#) \cdot \neg$
(2)	$\# \neg \cdot \neg \neg \neg \neg \neg \neg$

(4)	隔 て	(1)	筋 金
(5) 2	覆	(2) 2	岐 路
	う	(3) 2	控
			え

4

2

Yes